

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

どうも。あと7分あります。7分で終わります、午前の部は。

私が今回出していました質問の内容は、農業集落排水事業、公共下水道事業、戸別浄化槽の今後の対応について、2番目がメガソーラーの対応について、3番目が——3番目と4番目を入れかえて、3番目に子どもたちの今からの学校、家庭での生活について、4番目に市長の今後の政治姿勢についてということで行きたいと思います。

そしたら、早速ですけれども、1番目の農業集落排水事業、この農業集落排水事業の中で、公共下水道、戸別浄化槽と、下水道事業の中で3つあるんですけれども、この3点についてのお尋ねを出していました。その中で、きのう、おとといかな、こういうのが来ていました。（チラシを示す）これは何かというと、皆さん方、市報、来とったでしょう。（「うん。あった」と呼ぶ者あり）9月10日は下水道の日です。まさに、きょうなんです。9月10日の下水道の日で、せっかく下水道の日で書いて出さないば、今後の農集であり、公共下水道であり、戸別浄化槽であり、今後どがんすっですよ、今の状況がどうですよというのを書いたらですね、ここに、この中に書いていたら、私は一般質問で時間を費やすことはなかったんです。

〔市長「それはすみませんね」〕

せっかくですね、行政で、がん不親切かとやろうかにかや、本当にそう思うたです。まちきつと親切、せっかく出すならばですよ。

そういう中で、質問ですけれども、まず1点目、この中で、それぞれの、農集であり、公共であり、戸別浄化槽であり、それぞれの事業費、あるいは使用料、あるいは維持管理費、そういうふうな面をまず最初に答弁をいただければと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時54分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

執行部の答弁を求めます。石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

大変失礼いたしました。まずもって、9月10日の全国的な日にちの「下水道の日」という制定のチラシの件でございますが、昨日の佐賀新聞にも載っていましたとおり、やはり各市町村別の普及率等も載っておった状況でございますので、今後はもう少し工夫しながら進めていきたいと思っております。

それでは、御質問の各下水道における各事業の事業費、あるいは使用料等の維持管理費等の金額はどうなっているかという御質問でございます。

まず、農業集落排水について申し上げます。これは平成23年の決算でございます。事業費といたしましては1億8,275万円です。これは人件費入っております。このうち維持管理費が1億5,971万円ということになります。（「わからんぞ」と呼ぶ者あり）すみません。1億5,097万1,000円です。大変失礼しました。使用料収入です。1億588万3,000円ということになっておりまして、このほかに5億2,400万円の公債費となっております。したがって、事業費の総合計といたしましては7億700万円ということになります。それから、公共下水道でございます。事業費が3億3,400万円ということになっております。このうち維持管理費が1,155万5,000円ということです。使用料収入が1,038万9,000円ということで、公債費の支出は5,268万7,000円ということになっております。それから、戸別浄化槽市町村型でございます。これが事業費といたしましては2億5,700万円、そのうち維持管理費が1,765万円、使用料収入としては1,735万1,000円でございます。公債費については173万9,000円ということで、事業費といたしましては約2億6,000万円弱ということになります。全体合計いたしますと、総事業費13億3,300万円のうちに、維持管理費が1億8,000万円程度要っております。それから、使用料収入としては1億3,300万円が収入として入っているということで、公債費の支出が5億5,800万円ということになっております。

なお、これ会計は別でございますが、個人設置型の浄化槽補助金が17基で980万円程度支出を行っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私、きのう東川登町の運動会で、今ちょっと声もかかれておりますけれども、何かきょうの私の一般質問は、運動会で用意ドンといって、ころっとここで転んだような答弁の仕方をしてもらいまして、本当にありがとうございます。恐らく今の数字の分についても皆さん方わかった人おらんでしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）全く理解しとらんでしょう。というような状態なんですよ。

ということは、例えば農集、農集が今から償還を含めて赤字幅がずっとふえていくだろうと思うわけですね。それは何が要因かという、結局、償還はもう間違いなくずっと年度を追ってしなくてはならないと。その最終年度が平成40年ぐらいになっとつとですかね。まあ、いずれにしてもですよ、しからば、もう今既に耐用年数が過ぎた部分が恐らく出てくるだろうと。もうそろそろ修繕をしなくてはいけないよというような状況になっていると思うわけですね。それで、それに対する対応、要するに、ただでさえ今、さっきの答弁の中にあり

ましたとおり、赤字幅、赤字があったですね。どうしても足りない。その部分について今後どのようにしようかなと、対応をされるのかなというのがあるわけですね。そういうところで答弁をもらいたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

農排に関しての維持管理費の状況でございます。償還はずっと続きますが、農排に関しましては平成49年まで続くということになっておりまして、ちょうど農排の償還のピークが本年度でございます。5億3,000万円程度ということになっておるようでございます。

なお、維持管理費につきましても低減策でございますが、これは主に電気料と通信費、あるいは運営委託費等となっております。そのほかに更新工事費といいまして、中継ポンプが187基ございますので、この更新が毎年3,000万円程度を見込んでおるところでございます。これはポンプですから、やはり耐用年数15年程度を見込んでおりまして、この分が必ず更新が発生するということになるかと思えます。したがって、私どもといたしましては、ポンプをつけなくていいような方法がないものかということも現在検討しているところでございます。山内地区は特殊な地形でございます。高低差があったり、川があったりということもせざるを得ないということも多数ございますが、その中でも何カ所かピックアップして現在調査を行っているところでございます。こういうことで維持管理費の低減を少しでも図っていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

維持管理費の軽減を図っているところでございますということでございましょうけれども、維持管理費が先ほどの答弁の中にあつたように約1億8,000万円、そして使用料調定額が1億3,300万円ということで、4,700万円ぐらい、74%ぐらい、だから、4,700万円ぐらいの金額が足りないわけでしょう。一般会計から持ち出さんばいかわけでしょう。

何を私が言いたいかといったら、農集、この表の中で見たら、回収率をずっと書いてあるんですけども、例えば戸別浄化槽に至っては98%ということは、まあ、とんとんでいっていますよ。公共下水道についても90%のっています。ということは、これもまあ何とかいっていますよ。ただし、農集に至っては70%ということで、これが一番要因になっているわけですね。しからば、今から先、先ほどの話じゃないですけども、どうしても今から先は維持管理費だけじゃなくって、修繕費が含まれてくるわけですね。そこで、修繕費が含まれてくるということは、より以上に赤字幅が、要するに一般会計からの持ち出し金が多くなるということでしょう。そういう方面で多くなるということは、行政としては何とかしなけ

ればいけない。それは我々が下水道の料金を決めるときに、ここの議員さん全ての皆さん方だったろうと思うわけですが、特別委員会を開いてつくって、そして料金体系を決めて、そのときに何をしたか。5年ごとにとりあえず見直しましょうという話をしているんですね。見直しをしましょうということは何かというと、その当時の料金体系と今まで5年間きた料金体系で本当に今後も大丈夫なのかというのを検討する時期に来るはずだから、5年後に見直しましょうという話をしたわけでしょう。だから、今後どういうふうな方向で持っていこうかなという、恐らく何かがなければいけないと思うわけですね。このままではもう一般会計から持ち出す一方ですから、その辺について執行部としてはどのようにお考えなのか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

パネルを使って御説明を申し上げたいと思います。

（モニター使用）まず、先ほど申しました償還ですね、償還がどういうふうな構成になっているかということをもまず説明したいと思います。

3つの会計がございます。農排、公共、戸別ですね、それぞれございまして、この分の歳出でございます。これは横軸に年度を書いております、縦軸に金額ということになっております。農排は緑です。これ平成49年までの償還となっております、先ほど言いましたように、ピークが今年度でございます。5億3,000万円です。これに対して公共下水道、青で表示しております。平成69年までというようなことで、ピークが平成45年の1億8,500万円です。それから、戸別浄化槽が薄茶色で表示をしております、平成21年からということで、ピークが平成47年から51年で約8,900万円程度ということになっております。3事業合計いたしますと、真ん中の赤線で示しておりますとおり、平成37年の6億8,600万円ということで、こういうふうな償還計画になっております。

なお、将来値については実測値より推計しているところでございます。

それから、続きまして対象経費、現在どういうふうにお金が使われているかということをお説明申し上げたいと思います。（発言する者あり）ああ、これあと一回小さくなりますので、まず全体を御紹介させていただきたいと思います。

これ平成23年の実績値でございまして、歳出の分が、この中でグリーンが運転管理費でございます。それから、紫が更新工事でございます。青が償還金ということになっております。

〔19番「もうよかて、見えんけんが」〕

ああ、そうですか。

そしたら、次に、もう少し大きいのをいきますので、これは大丈夫でしょう。（発言する者あり）こまかですか。（発言する者あり）

[19番「わかりました」]

いいですか。

[19番「はい。まあいっちょ、今度は言葉であると答えてください」]

ただ、この償還金の考え方でございます。償還金はもちろん整備するために財源として借金をしたものでございます。これを全て公費で賄うということはいかがなものかなというふうに考えているところでございまして、実際、総務省の指針等を見ますと、農排、戸別浄化槽事業については約3割を受益者負担と考えていいんじゃないかと、あるいは公共下水道については約4割という、そういう指針も実は出ておるところでございまして、武雄市はもちろん償還金については今のところ全て公費で賄っておるところでございまして、この辺が今後の問題点ということで考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

せっかくきれいなグラフ等々をつくっていただきまして、本当に御迷惑をおかけしました。次、今度は私が質問するときは、数字はちょっと大き目に書いて、数字の比較をできるようなどをつくりましょうかね。執行部の皆さん。（「はい」と呼ぶ者あり）もうわからんとはわからんで、もうしょんなかけんが、今回は。

そういうことで、例えば農集を含めた今の答弁をちょっと整理しますと、結局、上げる体制をつくらんぎにや、今後、この農集を含めた下水道の維持管理というのは立ち行きができないということなんでしょう。そういうことですね。しからば、執行部としても農集の今後を考え、公共下水道の今後を考え、戸別浄化槽の今後を考えたときに、もうおのずと答えが出てくるわけですから、いかにして農集であり公共下水道、要するに、下水道に関しての今後のあり方を検討していただきたいということを申し添えて、次に移りたいと思います。

もういろいろとありますので、次のメガソーラーの対応についてということで質問を出しておりましたけれども、4番議員さんからしっかりと質問がございました。

ただ、ちょっとぐあいの悪かごと書いちゃったですよ。（現物を示す）栄八通信……

〔市長「そがんと読むぎいかん」〕

いや、読みはせんです。読みはせんばってん、がんでたらめば書いたらやっぱりいかん。

〔市長「いや、ごっといたい」〕

いやいや、ちょっと市長、やじらんでよ。本当になぜ私がここば言いよつかていうぎ、例えば1億3,000万円で簿価で公社から武雄市が買うた。数字なんかでたらめですよ、その後の数字。足し算と引き算と掛け算ばなししきらんやろうかて本当に思う。市民ばばかにしようよ、これは。（笑い声）いや、笑い事じゃなかって。本当にばかにしとる。それは何かていうぎ、面積は全くうそ。半分もなかですよ、この面積。坪単価もでたらめ。こいは、やっぱ

りここまで書くのであれば、間違いであり、うそであるということがわかったら、やっぱり訂正して、これは皆さん方に持っていくべきですよ。笑うていっちなえたら失礼か、読む人に対して。読む人はこれが本当と思うて読むとですよ。本人の目ば見いぎにゃ、俺もどきつとするけんが、見らんで言うですけども、本当に失礼かです。まあ、そういうことですね。それはそれとして……（「質問ばせんか」と呼ぶ者あり）例えば、また言わんばなんごとなつて、いろいろでたらめなこととか、自分の思いだけで書いとうわけですね。事実にとぐわんような書き方をされている。こいじゃやっぱり、この間、うそっぱち新聞て市長が言いよつたですけども、俺が言いよつたとじゃなかですよ。市長が言いよつたとですよ。言われてもしよんなかかなと。やっぱり本当を書いてほしいと私は思っております。

そいと、例えば東川登の新幹線の残土処分地の話の中で、この栄八通信にも書いてあるんですけども、行政の皆さん方というのは、本当に地元の方と行政と機構と何度となく足を運んで、話をして煮詰めて、そして努力をしてここまで持っていったとですよ。手も汚さん、足も汚さん人間が、こういうふうな書き方は最も失礼かと思うんです。これはまた後でいきます。

まず、メガソーラーの分ですから、メガソーラーの分をいきますけれども、九電工と武雄市が進出協定を結んで、今回、先ほどの4番議員さんの質問の中にもあったように、あそこの若木のほうに進出をされると。進出されるのは大いに結構。ありがとうございますということなんですけれども、進出をされるその後、例えばこれは借地でいくのか、それとも買収でいくのかというのが恐らく最終的に出てくるだろうと思うんですよね。それが今現在、どういうふうな方向で進んでいるのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

〔19番「簡潔によかけん」〕

○宮下つながる部長〔登壇〕

買収の方向ということで、今、鋭意協議を九電工さんとしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、買収の方向でという話なんですけれども、サインがVじゃなくて、丸て今出ましたけれども、そういうふうなことでうまくいけばいいなと思っております。

それと、メガソーラーについて、あと今後、あれはあくまでもあそこの話、若木の話ですよ。しからは、今から先、全国に今広がっているメガソーラーの広がりというのは本当に何と申しますか、台風よりもひどいような、速いような広がりを見せているわけですけども、九電工さんも東川登のあるところ、ある現場を見たときに、いいんにゃ、ここじゃなか

らんばいかんていうて今言っただいております。それも執行部の皆さん方、北川理事さんのところは何ていう部署ですかね。（「新幹線課です」と呼ぶ者あり）新幹線課のあそこところで土地を持つとんさっけんが、そこも一生懸命今協議をしてもらっております。そして、ほかのところも協議をもちろんしてもらっておりますけれども、このメガソーラーの今後の行方、どういうふうに武雄市としての行方はなっていくのでしょうか、市長。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、ここはスピードだと思っています。と申し上げますのは、この42円ということでしょうと、この42円があったからこそ、九電工さんとか、さまざまところが進出をしたいということになったわけですよ。私が聞く限り、これ1年ごとで決まるということで、来年の価格は来年の10月ぐらいですかね、まだ締め切りがあるということで、もうことは間に合わんわけですね、幾ら何でももう10月というのは。ですので、来年の10月に合わせて何らかの体制をとる必要があるだろうと。ですので、これね、42円が上がるということはもうないですよ。もう絶対ない。多分下がる一方でしょうね。だけど、その下がるところで決まったところで、例えば約20年の契約が結ばれる、残りのところで結ばれますので、そういう意味でいうと、スピードは最大の付加価値。ですので、先ほど山口裕子議員さんにお答えしたように、我々としてもしっかり体制をとっていきたいということは思っておりますので、ぜひごらんになっている、そういう関連会社の皆さんたちがいらっしゃればね、一緒にできればいいなど。その体制についてはこれからいろいろ考えていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それこそ若木であり、東川登であり、議員各位が、ここに議長を除く25名の方がお見えですけれども、いいんにゃ、これはうちの辺な絶対に、これ太陽光には間違いないと、ぜひうちに来てもらえんやろうか。私の頭ば見て、頭押さえようとおうとですけれども、太陽光にはもう本当に適していると思われる方は、本当に市長部局のほうに行っただいて、これはどがんないとんせんばいかんばいと。絶対ここはいいよというようながあれば、皆さん方話をしていただきたい。議員さんを初め、市民の皆さん方。そして、それこそ行政と我々とで話をしながら、よりよい、それこそ原発のない電力を供給できる体制をとらなければいけないというのは、皆さん方認識は一緒だと思うわけですから、そういうことを今後考えてやっていただきたいと思います。

それでは、次の子どもたちの今からの学校、家庭での生活についてということで質問をさ

せていただきたいと思います。

ここに、「子どもたちのSOSが聞こえますか?」といって、要するに、いじめのことについての冊子が佐賀県の教育委員会から出されております。

そういう中で、先ほども申しましたとおり、きのう東川登町で運動会をしました。その運動会の中で、東川登には中学生が1人と小学生が1人、車椅子で頑張っている子どもがおります。きのうの運動会でそれを見たときに、小学校の1年生のその子どものお世話、誰がしたか。上級生の子どもが手を挙げて、自分がするよ、初めから最後まで面倒を見てくれました。中学生のその子どもは、本当に何というのかな、全く卑屈になることなく、普通の健常の子どもたちと一緒に車椅子で障がい物競走、徒歩競走、本当に一生懸命するわけです。そして、中学生の子が昼休みになったときに何をしていたか。ほかの同級生とサッカーボールで遊んでいるんです。何も違和感のなかとです。普通に遊んでいる。

何を私が言いたいか。いろんな皆さん方が質問の中で出されておりますいじめ、きのうのあの情景を見たときに、東川登小学校であり、川登中学校でありが、これは恐らくいじめなんて考えられないなと思って、きのうは見ました。

そこで、教育長にお尋ねですけれども、今の武雄市のいじめの状況は、先ほどもちょっと触れられて申されましたけれども、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変感動的なお話から入っていただきまして、直接私はその場は見ることができませんでしたが、きのうだけできるはずないわけでありますので、これまでの何年もの子どもたち同士のかかわり、それから、先生方の努力というのを改めて感じたところです。

先ほどの御質問に答えましたとおり、報告していただいたのは1件という言い方をしましたけれども、1件ならば本当にうれしいなという思いでおるわけであります。

ただ、人間誰だって何人か集まればいじめの生じる可能性はどこにでもあるわけでありまして、だから、そのときにどういう対応をしていくかということがあと大事になってこようかというふうに思っております。どこにでもあり得るという構えで市内の先生方、どこでもそうでしょうけれども、特に市内の先生方、熱心に取り組んでいただいているというふうに解釈しております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

先ほど市長答弁の中に、キッズボランティアということで子どもたちが仙台に行ったという答弁がありましたけれども、そのキッズボランティア、ただ単にキッズボランティアで突

然行ったわけじゃないんですね。これはもともとずうっとストーリーがあるわけですね。というのは何か。被災があった。あの3月11日の大震災があった。そして、我々が5月に行った。5月に行って、そしてボランティアをしてきた。その写真を見て、子どもたちが何かをしなければいけない。自分たちでできる応援をしなければいけないということでやったのがアルミ缶の回収なんです。そして、アルミ缶の回収をして、仙台市にまず車椅子を2台、車椅子2台分のアルミ缶を集めて送った。そしてその後、気仙沼にまた2台送った。そして、何をしようかといったときに、子どもたちはやっぱり現地を見て、現地の状況がどうなっているのかというのを知りたい、見たい。そういう中で、前議長の牟田議員が幸いにして仙台の今の佐藤議長と友達だったもんですから、その関係で仙台の佐藤議長が武雄に来たときに、ここが、東川登小学校が仙台に車椅子を送ったんですよということで東川登小学校に来てもらいました。そして、子どもたち全員と写真を撮って、六郷小学校と交流をしましょうねということでなったのが始まりなんです。そして、行く前にテレビ会議というのをやりました。六郷小学校と東川登小学校。しかし、これ失敗は許されないということで、北方の小学校の校長先生が幸いにして東川登の出身でしたもんですから、その校長先生が、まず北方と東川登と練習をしようねということでテレビ会議をして、その後に六郷小学校とテレビ会議をした。そして、そのテレビ会議の中で、東川登小学校の子どもたち1年生から6年生まで、そして六郷小学校の生徒たちがテレビ会議をした。そして、うまくいった。これで終わりますよと言ったときに、本当に先生たちの涙があった。ということで、その場に教育長、あるいは学校教育課長、そして支援課の皆さん方おられました。あの先生たちの涙を見たときに、教育長としてどのように感じられたのか、御答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょっと長くなるかわかりませんが。

（モニター使用）お話にありましたテレビ会議でございます。これまで市内各学校でいろんな学年、授業の中でとか、あるいは校長講話で、あるいは文化祭で、あるいは日常的に募金活動であったり、お手紙であったり、いろんな活動がなされてまいりました。これはあくまで教育活動としてやったわけでありまして、その活動だけが目的ということはないわけがあります。つまり、心の教育を狙って目指してしていただいたというふうに思っております。

御存じのとおり、武雄北中学校では夢プロジェクトとして、実際に北中の生徒たちも東北に向きました。校長は次のようなコメントを出しております。真剣に本気になってやれば、遠く離れた学校からも被災地の力になれることを生徒たちは実感することができた。人はつながりながら生きていること、いかなるときも一人ではないという実感も得ることができた。いろんな活動の中で、しかも直接的な体験の中でこのような学びを得ることができた。そし

て、それを自分の学校のほかの生徒たちにも広げて、今度またミュージカルとして挑戦をされているわけでございます。

東川登小もこれまでの積み重ねの上にテレビ会議をしていただきました。これも東北の学校とつなぐというのは初めてでありまして、随分お話にあったような準備、そして子どもたちも当然準備してくれたわけでございます。このような形で全校生徒そろって、そして東北へのテレビ会議が行われたわけでございます。仙台市立の六郷小学校という学校との交流でございました。

そして、今回は実際に仙台に出向いていただくことができました。六郷小学校との交流でございます。向こうの校長室での交流でございます。また当然学校だけとの交流ではなくて、おいでいただいた大友さんですかね、直接お話を聞くこともできたそうであります。

それまでにアルミ缶で車椅子を贈呈しようという試みをされました。これは子どもたちでできる活動としては非常に適していた、ふさわしかったというふうに思われます。自分たちでできることは何だろうかと考えた上での結果だろうというふうに思います。いろんな方の御協力も得て贈呈もなされました。ソロプチミスト佐賀の皆さんからの御支援もあったようであります。

こういう中で、きのうも東川登の体育大会のときに、校長先生掲示しておられましたけれども、子どもたちも、こういう感想をちょっと借りてきました。行く前、アルミ缶潰しをやっていた。帰ってきて、アルミ缶潰しに対する気持ちが変わった。私も頑張らないと思っ、大変だったけれども、続けたというような感想を書いている子どもさんがおられました。つまり、自分ながら思いの変化、気づいているわけでございます。引率の先生も、自分を支えてくれる人や場所があるから人は生きることができると。大切な人や場所を失った人たちに、そのかわりにはなれないが、新しい友達として自分が支える人になりたいということで、いろんなつながり、まさにきずなの中で感動ある体験、そしてかかわった子どもたちが成長してくれているということを感じております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、答弁をいただきましたけれども、東川登小学校の松尾校長以下、諸先生方、あるいは川登中学校の中野校長以下、諸先生方が一生懸命になってその子どもたちの教育に尽力をされている姿を見たときに、こいだけしよったらいじめなんて考えられんて、私は本当に心から思ったわけですね。例えば、仙台にただ単にキッズボランティアということで派遣されて行ってきたよじゃなくって、ただ2泊3日の研修に行ったその成果が（冊子を示す）この冊子なんですね。何十ページであります。子どもたちの思いなり、校長先生の思いなり、今後どういうふうにしたら自分たちの生きる生きざまなりをもう子どもたちが書いている。心の

教育というですかね、そこをこれだけ一生懸命本当にしてもらっている。もう自分の生まれ育った学校のことを褒めるのはちょっといかなものかとは思いますが、本当に一生懸命になってしてもらっているなというのが私の実感なんですね。

私、決してほかの学校がそういうことはあり得ないって言っているわけじゃないんですね。どこの学校のどの先生だって子どものため、家族のため、あるいは地域のために思い、その先生たちは先生たちなりに一生懸命になって努力をされている。それでもいじめがなくなるといのは何なのかなと思いつつ、せめて武雄市だけ、せめて佐賀県だけ、ひいては日本全土でこのいじめのない、本当に子どもたちらしい生活ができる環境づくりを今後もしていただきたいなと思っております。

ということで、次に移りたいと思っておりますけれども、市長の政治姿勢ということで出しております。

まず1番目に、政治姿勢の中で、駅の南口……（発言する者あり）いや、まだ今からが話やもん。その駅の南口の広場周辺の整備は今から先やっていかなければいけないと思うわけですね。ということは、新幹線が来るのを前提にやっていかなければならない。そしたら、新幹線整備とともに武雄市もそれなりの恐らく金が要るだろう。予算づけが必要だろうと。そういう中で、駅の南口周辺をどのように今後計画しようかなという思いがあられるのか。もう市長じゃなくても、担当部署でもいいですけれども、御答弁いただければと思うんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

駅南口の周辺の整備はどう考えるかという御質問でございまして、これにつきましては平成22年度に策定をしております、整備構想を策定しております。新幹線活用プロジェクト等の御意見等を踏まえて基本計画を策定したところでございます。

中身について申し上げますと、現在の面積から約倍程度の面積、倍まではいきませんが、それぐらいの大きな面積を確保して、それから一般の乗降、あるいは公共、タクシーですね、それからバス、それから観光バスですか、そういうふうなものが安全に通行、あるいは停車できるような形で進めているところでございます。

なお、それ以外の駅周辺につきましては、現在、駐輪場等を活用しております、その中で、派出所も現在あそこにあるわけですが、そういうものも含めて、今回、整備をできたかなというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、派出所の話をされましたけれども、派出所の移転を含めて考えていると言われたですよ。しからば、派出所を移転するというたら、今の場所から大体どの方向に移転をしようかなというような考えのなかったら、移転をするというともなかなか言いにくいかと思うですけれども、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件は実はいろいろ我々の中で話し合っていたときに、ちょうど松原通りを歩きよったら、これは名前は出しませんが、ある店舗の方が、いや市長、派出所はこっちがよかですよと、松原通りが一番よかということを言われました。ですので、これは地権者との兼ね合いもありますので、あと警察のお考えもありますので、そこは慎重に話をするべきだと思うんですけれども、やっぱり市民の声が第一ですね。そしたら、あそこにしょっちゅう武雄温泉どこでしょうかと聞かれんさっわけですよ、その店舗主の方が。そいぎ、そこに警察があれば、そこに寄っていただいたりとか、あと、あそこにあることによって安心・安全のさらに場所になるということからして……（発言する者あり）はい、仲よかですね。ですので、そういう観点から話を進めていけばいいかと、このように思っております。最後にしますけど、一番いいかと私自身も思うのは、あの松原通りのところかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということは、あの辺を中心に双方の合意があればいくということでは理解をしいわけですかね。——はい、わかりました。

今、ちょっと仲よかねと言われたんですけれども、皆さん方の担当箱にもこういうふうなのがあったですか。公開質問状、お願いとかいうの、なかったですか。これはあったとです。実は、議長宛てにこいの来とったとですよ。そいぎ、どなたの書いとんさっかなと思うてから見よつたぎ、武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会ということで、字ば読みきらんとばってん、武雄芳輔さんと読むと。井上一夫さん、言うてきとったわけですよ。中身ばずうっと書いてあることを見よつたら、もう武雄市議会はぱーちくりんかいというような意味合いのことをいっぱい書かれてある。（「ぱーちくりんて」と呼ぶ者あり）うん。それで、武雄市議会は何というですかね、例えば議会報告会も何もしとらんやなかかいと、あるいは議会報告のチラシも配いよらんやなかかいと、武雄市議会はどがんしようかいというような書き方をここに書いてあるように見えるんですね。そいぎ、井上さんという方が、例えば議会が本当に悪いと思われるのであればですよ、議会に傍聴にでも来られても結構だと思

うんですよね。私は一遍でも見たことなかです、その井上さんという方が傍聴に来られたとも。武雄さんというのは、この間の臨時議会のときに、我々が審議をして、そして可決・成立するまで、最後まで傍聴されて帰られました。だから、これは納得されていると私は思うわけです。栄八さん、頼むけんが、ビラば配るときはちゃんと井上さんという人にも配っててくださいよ。そがんせんぎにゃ、あんた中身のわかつらっさんよ、これは。

実は、私もう頭にきたけん、書いてきました。（資料を示す）これ映さんでもよかとぼってんが、これ何かていうぎ、我々グループが、個々の議員さんたちが、これは報告会ばした分、議会報告会をした分。（発言する者あり）そのほかにも、いや、本当に武内であり、朝日であり、北方であり、山内であり、東であり、報告会をした分なんです。栄八さんは何もしよらんろう。そいけんが、井上さんが何も武雄市議会はしよらんていうて書いとんさつとでしょう。してくださいよ。ほかの議員まで迷惑すつですよ。いや、本当に。

そういう中で、これはほんなごた議長に言わんばらんと、これば受けた意味、何で受けたと、がんとぼて言いたかとぼってんが、そいも聞かれんでしょうから、皆さん方にこれは紹介としてとどめときますけれども、まさに失礼千万なんですね。市民の負託ば受けとって何もしよらんていうような言い方。そこまで言うのであれば、井上さんに私は言いたい。次の市長選挙のとき、市長選挙に出て、そして自分の思いはがんですよて言うてもらえば結構だと思ふ。

〔市長「いや、結構」〕

市長が結構て言いよるですけれども。

〔市長「市会議員に」〕

市会議員に出てもらっても結構です。そして、我々と一緒になって武雄市の未来のために汗水流して頑張ってもらえればそれでいいと思うわけです。何もしとらんて、まさに失礼千万。見てくださいよ。ここに書いとるだけで幾ら書いとうですか、十何回書いとうですよ。そいぎ、今後も、今から先もずうっと議会報告会、あるいはチラシで報告をしたい。失礼な話だと私は考えております。

そういう中で、今後の図書館の進め方はどのように考えておられるのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは答弁に入ります前にね、議長の名誉についてちょっと言いますよ。議長もこれ気の毒。というのは、私は後で聞きましたけれども、これ何か、今までの市民の会というのは、僕も市民の会て知らんですもんね。もう名前もどうかと思いますよ、この市民の会というのは。ですので、この市民の会なるものが、議長に対してね、いや、こういう活動の報告について来ますということで受けとんさあわけですよ。まさかここで公開質問状の来って思わん

やったわけですね。ですので、議長には本当に気の毒です、私は。もし私が議長ないし事務局やったら絶対に受けません。受けるわけがないじゃないですか。こんな、どこがどうしているかわかんないようなところをね、全部受けたら、全部受けんばいかんですもんね。私はね、これで議論をしましょうとか、あるいはちゃんと事前にやっぱり言わんばいかんですよ。これはだまし討ち。私はね、憤りを感じていますよ。

その上で、本当に私はね、これ武雄さんが気の毒。私、図書館に関しては、公式、非公式に武雄さんと話をします。そいぎ、武雄さんは私に対してがん言いんさったです。これは民意で決まったことやっけんが、その範囲内で我々も協力します。がん言うとなんかさつともかかわらず、この井上一夫さんという人が載せてしもうて、とんでもない話ですよ。載せてしもうて、武雄さんをだしに使って、そいで、佐賀新聞なんか武雄さんが載つとんさったですもんね。もう気の毒千万ですよ、私は。それで、こういうね、わけのわからんことば書きんさあわけですよ。このタイミングで、これどういうことでしょうかね。もしね、これ議会に出す前にね、我々に出さんばいかんさい、これは。執行権のある我々、提案権のある我々に出さんばいかんですよ。

しかも、私は議会でも言いました。いろんなところでも言っています。必要とあらば説明会にも伺いますと。私は今まで言いませんけれども、非公式の説明会に私は何度となく行っております。ねえ、山口昌宏議員さんね。3人のところでも行きましたよ、私。だけど、この井上一夫さんという方からは一つもそんな話は来ておりません。

この中で私が最も憤りを感じるのはね、議会も気の毒ですよ。「議場の品位、品格を保ってください。議員さんだけの責任とは思いませんが」、これ私に対して当てつけですもんね。「多くの市民が眉をひそめています」て、大きなお世話ですよ。あのね、人の品格を言う人にろくな人はいません。今まで私はいろんな人とおつき合いをしてきました。その中で、最も品格識見にすぐれている人は、自分のことしか言いんされんですもんね。私はこれが足りませんとか、もっと品格ば上げんばいかんて。そいけん、樋渡さん、もっと上げんばいかんてん言いんされんです。「あなたの品のなさも個性です」て言いんさった方は議員さんにもおられました。ですので、人の品格をとにかく言うという人に私はろくな人はいないと思っています。またこれで批判を浴びるでしょう、私は。いいんです。

その上で……（発言する者あり）いやいや、だって、私は思いですもんね。思いは発言の自由ですから言いますよ。

その一方で、我々がなすべきことに対してね、信を下すというのは選挙なんですよ。唯一無二、選挙です。ですので、こういうね、無体な足引っ張りじゃなくて、もし我々がやることに関してどうしても異議を唱えるのであれば、それは選挙のときにぜひね、これは立候補という立場もあります。ありますが、私はそこまでも言いません。市長選とか言いませんので、ですので、そんなときに投票活動としてね、示していただければ私は結構だと思います。

それが私は真っ当な議会制民主主義だというふうに思っております。

その中で、今後の件に申し上げますと、これはもういろいろ来ていちゃもんだと思っておりますので、これはこれとして、聞くべき意見もね、若干ながらあります。あるので、その分については柔軟に踏まえてやっていきたいと思っております。これは議会でもよく相談します。

その一方で、今後の手続ですけれども、9月議会で追加でまだ予算を提出させていただきます。この際に、なるべくこういうふうにしていきたいということで具体的に御説明申し上げますので、そこにぜひ議員さんから御質問という形、あるいは御意見という形で承っていければいいなというふうに思っております。

これが完了いたしますと、御議決を賜るということになれば、予算としてもう発動することになりますので、閉じて本格的な中の工事に入って行って、遅くとも4月1日にオープンができるようにしてまいりたい。その際に、やはり市民の皆様方に御不便をおかけすることになりますので、今、県の図書館であるとか、あるいは近隣の市の図書館に対して協力要請を行っております。一方で、特に子どもたち、これ非常に大事ですので、これは前、古賀部長が答弁したとおり、文化会館の2階のところ貸し出し等を行ってまいりたいと思っておりますし、なるべく長い期間借りられるようにね、これも大人の皆さんですけれども、これも整理との兼ね合いの中で最大限してまいりたいと思っておりますので、なるべく市民の皆さんたちに御不便をおかけしないようにね、我々としても意を払ってまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

本当に皆さん方の担当箱に入っていない部分もああとですかね。（「まだ見とらん」と呼ぶ者あり）ああ、見とらんとですね。いんにゃ、その中にね、こう書いてあるんです。「執行部に対して「ああしろ・こうしろ」と注文する議員は多いが」、わかったですか。「ああしろ・こうしろ」と注文する議員は多いが、議員同士のけんけんがくがくの議論はない。議員間で自由な議論ができれば、各議員の考え方もわかり、議会に対する市民の信頼度は上がることは間違いない」、これまさに傍聴に来ていないという証拠なんでしょう。けんけんがくがく我々は一生懸命なって議論をやっていますよね。（「そうそう」と呼ぶ者あり）やっていないですか。（「しよる」と呼ぶ者あり）そうでしょう。合い中にはうさごとばかり言われる者もおんさあばってんが、そうでしょう。まさに失礼千万ですよ、これは。

それと、もう冷静にいきます。冷静にいく中で、今、市長の答弁をもらいながら、ふと思ったんですけれども、TSUTAYAにしても、スターバックスにしても、武雄市として図書館に対するアンケートをそういう中でとられたという話を聞きますけれども、そのアンケ

ートの結果、もし出ていれば、それと、アンケートに対する思いを市長に答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）これが1,000件アンケートということで、一月以上かかるかなと思っていたんですが、思いのほか市民の皆さんたちが自分でも書きたいということで、無作為を中心として行った結果です。1,120件になります。そこで、質問項目を5つにしておりました。「大いに期待する」「期待する」「どちらとも言えない」「期待しない」「全く期待していない」ということで、この中で赤の部分が上から2つ、「大いに期待する」と「期待する」です。これが70.4%になっています。「大いに期待する」が70.4%、そして「どちらとも言えない」が19.7%、「期待しない」が8.3%となっていますので、そういう中で、70%を超える皆さんたちが期待をするということになっています。ただ、これ1,120あって、今、精査の途中ですので、これは改めて松尾陽輔議員さんの御質問のときに、市内どれぐらい、市内の中でも例えば何とか町はどれぐらいとかいう詳細のデータは、松尾陽輔議員さんのときにもしお許しをいただければお答えしたいと。これあくまで速報値ということでお聞きいただきたいと思うんですね。

その中で、図書館の機能充実で期待するものということについては、これは複数回答ありですので100%にはなりません、「開館時間9時から21時」というのが最も多い。「365日開館」というのがそれと同じぐらい多いと。あとは「ポスト返却」とか「図書20万冊」はそれぞれの半分弱であるということになっております。ですので、最初に議会も御同意いただいた開館時間9時から21時まで、365日開館というのが事ほどさように高い期待をいただいているということになります。

次に、図書館の新しいサービスで期待するものということで、ごめんなさい。これパーセント値がちょっと間に合わなくて、これも必要とあらば松尾陽輔議員さんのときにお答えいたしますけれども、1位が「スターバックスの導入」であります。2位が「映画・音楽のレンタル」、3位が「雑誌の販売」、4番目が「Tカード・Tポイントの導入」、「文具の販売」というふうが続いてまいります。これについては、これパーセンテージ値がないとなかなかちょっと正確なところが言えませんので、きょうのところはこれでお許しいただきたいと思っております。

評価については、私はツイッター上かな、で言いましたけど、50を超せばいいなということはおっしゃって、50を超せば。それが70を超したということで、強い期待を背に受けているということですので、これは本当に民意だと思っております。図書館をこういうふうに、

先ほど申し上げた朝9時から夜9時まで365日というのは、CCCのお力をかりて行うというのはもう民意だと思っておりますので、この民意の70%というお気持ちを無にしないようにね、いろんな制度設計をしていきたいということを考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

せんだって、私、うちの近所にセブーンイレブンがあるんですけども、そのセブーンイレブンにちょっと買い物に行ったときに、そこの従業員さんで、嬉野からだったと思うですけども、来ている若い女の子が、おんちゃん、いつでくつと。何のと言ったら、要するに、TSUTAYAが来て、スターバックスが来てて。それ来年の4月以降たいと言ったら、早う行って見たかねと。何しや行くと。まあ、言うたら悪かかもわからんですけども、まさか本読みや行くごた顔はしておらんやった、私と一緒に。そいぎ、いんにゃ、スターバックスのコーヒー屋のでくってやけんが、絶対そこに行ってみたかと。その行くことによって、ひょっとしたら本を読む……

〔市長「そうそうそう」〕

教養を高めるという可能性があるのかなと。

〔市長「そうです」〕

そんなとき、そう思いました。まあ、そういうことですね。

その図書館問題についてはこれで終わって、次の、ちょっとすみませんね。国保税、1点だけ。今回、補正予算に金額的なもんが入っておりますので、事前審査にならないように質問を1点だけします。

というのは、武雄市は国保税の、新聞に載ったけんですね、上があじやろうと。その国保税は、新武雄病院のできたけんが国保税の上があてやろうがていう話なんですね。何して。そいぎ、私が何で新武雄病院のでくつぎにゃ、国保税の上があとて。いんにゃ、新武雄病院な高かってやもんで。その人には私は言うたとは、医療費全国一律ばいて。例えば東京で治療ば受けても、東川登で治療ば受けても、医療点数というのは一緒ばいて。そいけん、新武雄病院ができたけんが上があわけじゃなかよ。今の世の中の状況の中で、やっぱり高齢者率が上がっていけばいくほど医療費も高うなろう、よんにゆうなろうと。だから、医療費もやっぱりそういうふうな状況で、診る人よりも診られる人が多うなあけんがやろうもんという話をしますけれども、実際問題として、本当に新武雄病院ができたから医療費が上がるのかどうかというのを、やっぱり行政としては払拭ばしとかんぎにゃ、今後、本当にそれがひとり歩きしたら、そういうふうな状況になりますので、どこか特定のところがしたら医療費が上がりますよというのじゃないよというのを、執行部としてはやっぱりここで説明ばしとってくれんぎにゃ、今回の予算議案もしにつかとかやなかりかと思つて、執行部の方に答弁を

求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやね、もう新武雄病院も気の毒ですよ、もう本当に。私もね、これね、何方から聞きました。もう新武雄病院のせいで国保が上がるというのを聞いて、ちょっとこれ事前審査に係る話にもなりかねませんので、答弁次第では。だから、数字をちょっと議案審議のときにしたいと思うんですが、ざくっと言って、今まで県外で治さざるを得なかった病気であるんですね。例えば、九大病院であったりとか、市外でも佐賀大学医学部や好生館であったりとか。その部分で治さざるを得なかった、治療せざるを得なかった、例えば脳外科であったりとか、あるいは脊髄系の病気であったりとか、関節系の病気、これが新武雄病院にシフトしています、新武雄病院に。ですので、数字は議案審議のときに示しますけど、市民が県外で使う医療費というのは格段に下がっているんですよ。その分が新武雄病院にふえているというのはこれは事実です。県外もふえて、新武雄病院もふえていけばね、それはちょっとどうかと思うんですけど、直接的な移動についてはなかなかデータとりづらいいんですけど、ざくっとした数字だけで言えばそういう状況になっているんですよ。ですので、より市民の皆さんたちから便利になったということ。

それともう1つ大事なものは、全部医療費が上がっています。これは診療報酬の改定もあって、開業医でも上がっているんですよ。新武雄病院も上がっています。佐賀大学の医学部も例外なく上がっているんですよ。上がっている中で、こういう状況であるということね、ぜひ市民の皆さんたちも御理解をしていただきたい。ですので、これはね、犯人捜しというよりは、むしろ今後どうやって国保を抑制するかと。これ黒岩幸生議員さんもよくおっしゃいますけれども、国保をもうこれ以上上げないためには、これは夕張の村上先生もおっしゃっていますけれども、やっぱりもう早期治療、それと、なるべく病院にかからないという予防医学の観点から我々は行政を進めていく必要もあるだろうと思っておりますので、今後そっちのほうに議論が行けばいいかと、前向きにね。もう犯人捜しはやめましょう。そういうことを思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

すみません。最後になります。新幹線の残土の活用について1点だけお尋ねをしたいと思います。

またここに登場するのが栄八通信です。（現物を示す）この中に何て書いてあるか。先ほども私が申しましたとおり、大山路の地権者の皆さん方、あるいは北川理事を初め行政の人、

機構の方、本当に一生懸命けんけんがくがく協議をして、きょうに至っているわけです。そして横からひょろっと来て、残土活用は数億円の価値のあろうもんで。あそこに残土処分地を持っていくために、武雄市が機構からどれくらい、要するに、武雄市としての価値を、私が言いたいのは、例えば道路の整備であり、河川の整備であり、あるいは残土処分地の遊水地であり、そういうふうな工事の価値がどれくらいまであるのか、それをまずお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

内田、大山路の残土処分場につきましての御質問だと思います。これにつきましては、先ほど議員さん御指摘のように、大山路の区の方と1年以上かけてお話をさせていただいて、この残土処分場にこの新幹線工事がどうしても困っているというような事業を御了解いただきまして、大山路区の地権者、あるいは住民の皆様にご了解をいただいたところでございます。これにつきましては、6月の議会のほうで御承認をいただいたところでございます。

この事業につきましては、浦ノ崎という伊万里のところまで持って行くには約12億円ぐらいかかります。これについては非常に事業費がかさむというふうなことで、地元のほうでやったほうが良いというふうなことを説明いたしまして、機構のほうからは、運搬費、あるいは調整池含めまして、道路、擁壁含めて造成費が7億円、合計で11億円ぐらいかかるというふうなことでございました。この分を地元のほうで計画することによって地元の環境の整備もできますし、あるいは地元経済に及ぼす効果もあるというふうなことで、地元の皆さん方に御了解いただいてやってきたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、答弁でありました7億円、この7億円というのは何を意味するか。この条件として、北川理事は一生懸命機構にお願いをして、地元の業者さんにやってくんさいの、7億円の仕事は地元の業者にさせてください。それによって幾らかなりとの、それこそ7億円を税金に換算すれば幾らになるか私はわかりませんが、何かこの新聞を見よったら、全くそれが無いというような感じで書いてあります。そうじゃない。地元の浮揚のために協力をしますよ、機構も言ってくれました。だから、この新聞、地元の人間としては全く頭にくるわけですね。よそからひょろっと来て、いろいろ言うな。地元のどいだけ骨折いようか。行政の担当者がどれだけ骨折っているのか。そういうふうなことを含めて、何もわからん人間のいろいろ言うとはおかしか。事実に基づいてこういうふうなことは書いてほしい。

以上申し上げまして、私の一般質問を終わります。